

2012 年度 経済学部 「授業評価アンケート」 報告書

経済学部 授業評価担当委員

1. 2012 年度授業評価アンケートの実施概要と重点課題

(1) 実施概要

経済学部では、各授業において授業改善に役立てるために授業評価アンケートを期間中と期末の 2 回実施している。



- ・ 期間中アンケート：授業期間中の中間時点で授業担当教員が実施し、開講期間中の授業方法の改善を目的としている。
- ・ 期末アンケート：授業終了後、成績発表時に nfu.jp システムにて実施し、次年度以降の授業改善に役立てることを目的にしている。

※期間中アンケートと期末アンケートの設問項目は【資料 1】と【資料 2】を参照

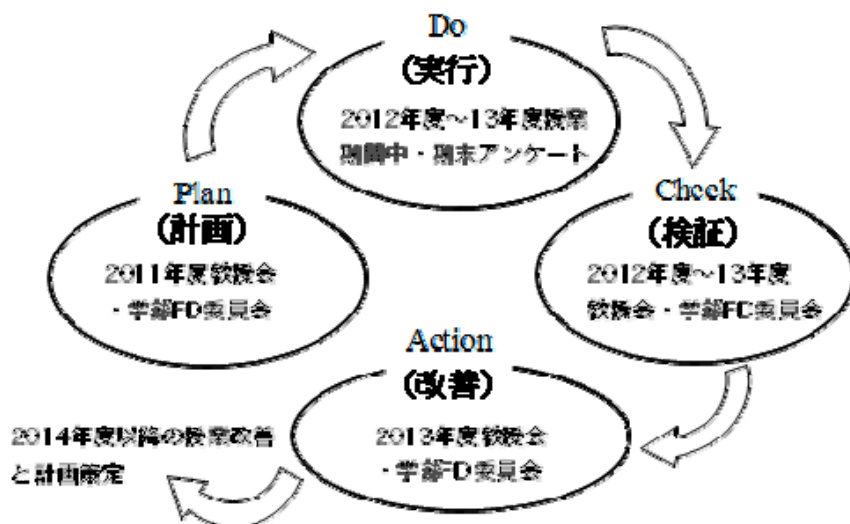
担当教員は、授業期間中アンケートと期末アンケートの結果を踏まえて「授業評価アンケート結果報告書」を作成し、授業方法の改善や内容の検討を行っている。担当教員が作成した「授業評価アンケート結果報告書」は、学事課にて学生に開示、閲覧できるようにしている。

(2) 2012 年度授業評価アンケートの重点課題

2010、2011 年度の授業評価アンケート回答結果を学部教授会ならびに学部 FD 委員会で議論し、2012 年度学部授業改善の重点課題として以下の 2 項目を設定した。

- ① 学生が授業に取り組めるように授業環境を良くする
- ② 学生の総学修時間の増加に取り組ませる

これら 2 つの課題について 2012 年度～2013 年度を期間とする PDCA サイクルにて改善を図る。



2. 本報告書の対象科目

本報告書では、表 1 の 10 科目を対象としている。2008 年度～2010 年度入学生は、これら 10 科目のうち選択して 4 科目を習得することが卒業条件になる科目であり、いわば学部のコア的な専門科目として位置づけられている。

表 1 本報告書の対象科目

2012 年度【前期開講科目】		2012 年度【後期・通年開講科目】	
1	経営学	1	財政学
2	金融論	2	ミクロ経済学（通年開講）
3	地域経済論	3	マクロ経済学（通年開講）
4	社会政策	4	西洋経済史
		5	日本経済論
		6	国際経済

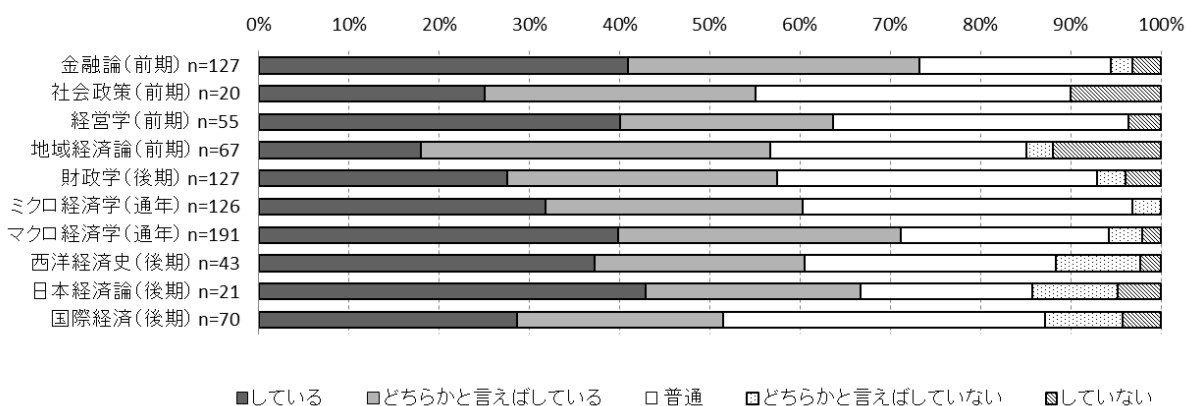
3. 2012 年度授業評価アンケート回答結果～重点課題を中心として～

前述したように、2012 年度学部授業改善の 2 つの重点課題として、①学生が授業に取り組めるように授業環境を良くする（期末アンケート【設問 7】）、②学生の総学修時間の増加に取り組ませる（期末アンケート【設問 9】、【設問 10】）を期末アンケート結果と教員の報告書に基づきまとめた。なお、期末アンケートの他の質問については【資料 3】を参照のこと。

(1) ①学生が授業に取り組めるように授業環境を良くする

【設問 7】教員は、私語や授業態度を注意して落ち着いて学習できるような授業をしていましたか。（あてはまるものを 1 つ選んで下さい。）

図 1 設問 7 の回答結果（n は回答者数）



< 課題の重要性 >

2010、2011 年度の授業評価アンケートより、私語や不真面目な授業態度によって学習の意欲が下がるという意見が複数あった。本学部はこの課題を重要視し、学部授業改善の重点課題として取り上げた。

< アンケートの回答結果 >

回答学生のうち半数以上が、「教員が私語や授業態度を注意して落ち着いて学習できるような授業をしている、あるいはどちらかと言えばしている」と回答している。この結果から、おおむね教員の授業対応について肯定的な評価を得ていると言える。

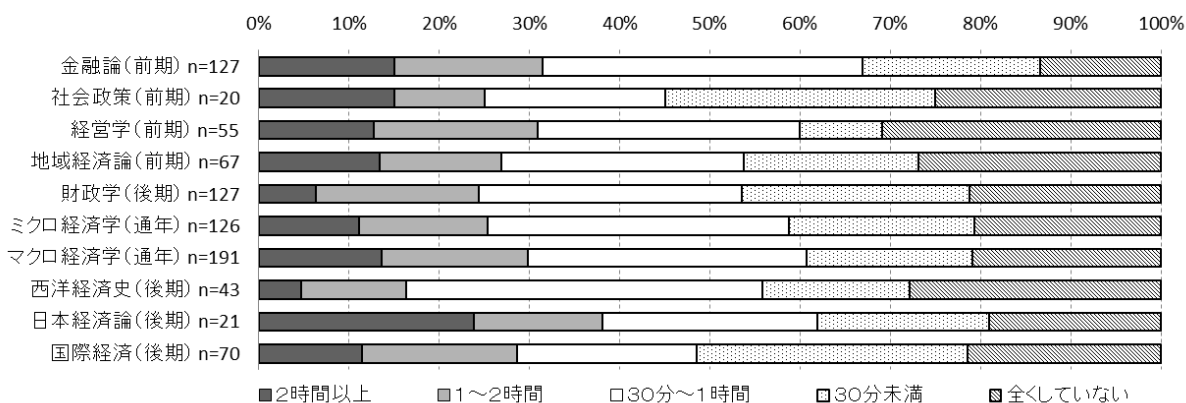
<担当教員の取り組み>

- ・私語や携帯電話の操作などについて厳しく注意する
- ・私語をしている学生の席を離す
- ・マイクの音量を変えることで学生に注意喚起を促す
- ・講義の魅力を高めたり、内容に関するトピックへの発言を求めたりするなど

(2) ②学生の総学修時間の増加に取り組ませる

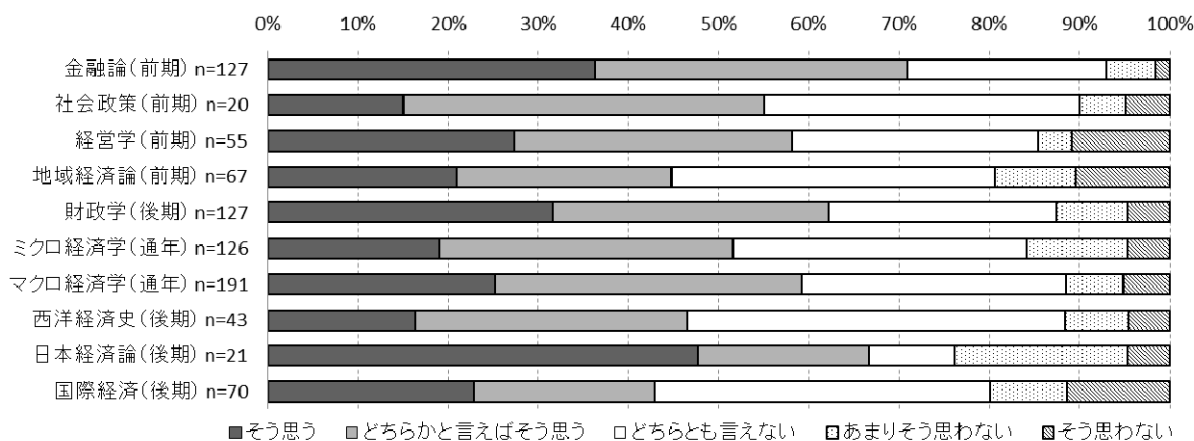
【設問 9】あなたは1回の授業に対して、どの程度勉強しましたか。(あてはまるものを1つ選んで下さい。)

図2 設問9の回答結果 (nは回答者数)



【設問 10】この授業は、宿題、予習、復習をするような授業構成と教材(テキスト、レジュメなど)になっていましたか。(あてはまるものを1つ選んで下さい。)

図2 設問10の回答結果 (nは回答者数)



<課題の重要性>

中央教育審議会答申『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～(平成24年8月28日)』にもあるように、大学生の学修時間が短いことが課題として指摘されている。そのため本学部では、2012年度学部授業改善の重点課題の1つとして取り上げているところである。

<回答結果から>

【設問 9】の回答「週に 30 分以上は復習・予習を行っているという」と、【設問 10】の回答「宿題、予習、復習をするような授業構成になっていたか（そう思う、どちらか言えばそう思う）」との比較で、学修時間を増やす教員の取り組みは、学生もそのように感じているように見受けられる。このことから、復習・予習に 0 分以上 30 分未満と回答した学生には、復習・予習の必要性があると理解はしているが、実際にはしていないことが想像できる。

<担当教員の取り組み>

- ・毎回の授業において授業内容を復習・予習させるため宿題提出を行っている
- ・任意でレポートの提出を促す
- ・授業開始時に前回の授業内容の確認問題を解かす
- ・レポートの提出を通じて予習がレポートの成績を向上させる経験を学生に与え、もって予習の重要性を実感させる
- ・期末試験に持込可とすることによって、テキストを買うよう勧めている。また期末試験では、B4 両面に自筆・自由記載の持込用紙を認め、たとえ一夜漬けでも節目には勉強するよう仕向けている。
- ・「宿題があつて当然！」という雰囲気がある学生にできるとよいと思う。

4. 前回の学部 F D 委員会での意見と論点

(1) 学生が授業に取り組めるように授業環境を良くする

- ①授業に真面目に取り組んでいる学生にとって、私語や不真面目な授業態度は想像以上に良好な学習環境を阻害することについて教員の共通認識とする。
- ②教員は、私語の注意や授業態度について適時学生に注意や指導を与えることが肝要である意識を持つ。
- ③授業態度が悪い学生に対しては、他の学生の学習機会を奪っていることへの意識を喚起させることが必要である。
- ④上記の①～③について学部全体としてどのように取り組むのか？

(2) 学生の総学修時間の増加に取り組ませる

<検討点>

- ①教員は復習・予習を学生に行わせる仕組みについては、一定の効果がある。
- ②回答をした学生の中には K 評価の学生も含まれているため、復習・予習にかける学修時間がほとんど無い学生もいることには注意すべきである。
- ③板書を写すだけのノートでは無く、学習をまとめるノート作りを学生にさせることで、学修時間を増やす効果があるのではないか。
- ④宿題などの課題は総学修時間を増やす効果があるのだけれども、多くの科目で大量に出しても消化不良になることが懸念される。
- ⑤復習・予習にかける学修時間が 0 分以上 30 分未満の学生に対して、総学修時間を増やすための仕組みについて？

以上